

初代院長：遠山 参良（とおやま さぶろう）年表

西暦	和暦	月日	遠山参良関係事項	関連事項
1866	慶応 2	1/13	鏡町に生まれる。(熊本県八代郡鏡町 165 番地) 父・半治、母・ツルの長男。遠山半治 (天保 8 年 2 月 24 日生)、ツル (旧姓戸田、嘉永元年 7 月 17 日生)。	1 薩長同盟成立。12 慶喜 15 代将軍に襲位。
1873	明治 6 (7 歳)	7 月	熊本県八代郡鏡町小学校入学。(～明治 8 年 9 月)	2/24 キリスト教解禁、切支丹禁制の高札撤去。
1875	明治 8 (9 歳)	9 月	熊本県私立 ^{ふるしろ} 古城洋学校・熊本洋学校 (第五回生) に入学。入学生 20 名。同期に、蔵原惟郭、徳富猪一郎 (蘇峰)、原田助らがいた。	7/26 熊本洋学校 1 回生卒業。8 洋学校第五回生入学。秋よりジェーンズ、キリスト教講義白熱化。11/29 新島襄、同志社英学校を開校。
1876	明治 9 (10 歳)	9 月	京都府私立同志社入学 (岡田松生に連れられて同志社に学ぶ)、英語及び普通科を修める。(～明治 11 年)	1/30 熊本バンド結成、奉教趣意書に集団書名。8 熊本洋学校 2 回生卒業、3 回生繰上卒業、廃校。9/9 熊本洋学校生、同志社英学校に入学。10/24 熊本神風連の乱。
1877	明治 10 (11 歳)		同志社在学。	1/30 西南の役勃発。2/15 西郷隆盛ら挙兵。2/22 西郷軍熊本城包囲。6/21-22 同志社にてキリスト信者の集会。
1878	明治 11 (12 歳)		同志社在学。	5/14 大久保利通暗殺さる。6/2 内村鑑三、新渡戸稲造ら、M. C. ハリスより受洗。
1879	明治 12 (13 歳)	9 月	熊本県本山村・私立 ^{こうしゆ} 広取学校入学、英語及び普通科を修める。(～明治 13 年)	6/12 同志社第 1 回卒業式。7 岡田学農社に入り群羊社に参加。
1880	明治 13 (14 歳)	9 月	熊本県鏡町・私立英語学校 (私学岡田英学校) 入学、英語及び漢学を修める。(岡田松生：熊本バンドの一人。同志社第 1 回生として卒業。鏡英学校を設立。) 名和童山から漢学・英学を学ぶ。(～明治 17 年)	3/12 東京青年会 (東京 YMCA) 結成。4/13 新島自杖。5/24 徳富同志社退学申出。5 小崎東京基督教青年会会長となる。岡田同会に参加。11/11 『六合雑誌』創刊。(小崎青年会の事業として) 11 徳富熊本に帰る。
1881	明治 14 (15 歳)		私立英語学校在学。	7/9 内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾ら札幌農学校を卒業。
1882	明治 15		私立英語学校在学。	6/4 大阪基督教青年会 (大阪 YMCA) 結成。
1883	明治 16		私立英語学校在学。	
1884	明治 17 (18 歳)	9 月	長崎県大浦・私立 ^{カブリ} 加伯利学校 (後の鎮西学院) 入学。	
1887	明治 20 (21 歳)		私立 ^{カブリ} 加伯利学校在学。	2/15 徳富蘇峰、『国民之友』創刊。3 熊本英語学会 (熊本英語学校) 創立。5/23 熊本女学校創立。
1888	明治 21 (22 歳)	6 月	^{カブリ} 加伯利学校英語普通科卒業。	5/16 内村鑑三帰国。
		9 月	長崎県私立鎮西学館教師就任、英語及び普通科担当。キリスト者として熱心な信仰生活を送る。9 月初旬、川崎升、長崎へ初旅の途中熊本の洗馬の一旅宿で遠山参良と会う。長崎の出島の教会で、説教	

			や通訳で雄弁を揮う。	
1889	明治 22		鎮西学館在職。	2/11 大日本帝国憲法発布、文部大臣森有礼、キリスト教徒とみなされ刺される、翌日死亡。
1890	明治 23		鎮西学館在職。	1/23 新島襄没。10/30<教育ニ関スル勅語>発布。11/25 第1回帝国議会召集。
1891	明治 24 (25 歳)	9/15 (火)	『處世日誌』(Will rules the World) の記述始まる。長崎に大リバイバルが起り、教師も生徒も一様に信仰に燃え立った。	1/9 第一高等中学校で内村鑑三<不敬事件>。6/7 中村正直(敬字) 没。11/17 横井時雄『基督教新論』刊。
1892	明治 25 (26 歳)		『教会史講演 第一巻』D・S・スペンセル(第4代校長)著、H・B・ジョンソン(第6代校長)序、遠山参郎(遠山参良)・山鹿旗之進訳。東京美以出版舎(田中柑三郎)、英文扉の記者名は「SABURO TOYAMA」のみ掲出。	1/11 熊本英学校事件、奥村禎次郎解雇(25日)。2/25 アメリカ南部一致ルーテル教会のシェラー来日。
		4月	鎮西学館を辞し、渡米。	
		5月	北米合衆国オハイオ州デラウエル市ウェスレヤン大学入学。生物学を修める。	
1893	明治 26		ウェスレヤン大学在学。	2/25 内村鑑三『基督信徒の慰』刊。4/10 井上哲次郎『教育ト宗教ノ衝突』。8/8 内村鑑三『求安録』(警醒社・福音社)刊。
1894	明治 27		遠山、ウェスレヤン大学で日清戦争について弁ずる。	8/1 日清戦争(清国に宣戦布告) 11/24 内村鑑三 Japan and Japanese 刊。12/10 横井時雄『我邦の基督教問題』刊。
1895	明治 28 (29 歳)	6月	ウェスレヤン大学を卒業、Bachelor of Science(理学士)の学位受領。	4/17 日清講和条約調印。4/23 三国干涉。5/10 内村鑑三 How I Became a Christian 刊。11/12H. リデル熊本回春病院創立。
1896	明治 29 (30 歳)	6月	ウェスレヤン大学より、Master of Science(理学修士)の学位受領。	8/21 同志社、アメリカンボードと断交、同校宣教師辞任。
1897	明治 30 (31 歳)	10月	鎮西学館教師再就任、英語及び生物学担当。川崎升、神学科最高学年で教えを受ける。	6/25 横井時雄、同志社社長に就任。7/15 内村鑑三『後世への最大遺物』刊。8/26 徳富蘇峰、内務省勅任参事官に就く。
			田中無津(ムツ、明治3年9月1日生)と結婚・入籍。	
1898	明治 31 (32 歳)	3/10	長男・不羈夫(ふきお)出生。	3/25 『六合雑誌』、『宗教』を合併。
		6月	川崎升、鎮西学館を卒業し、久留米の牧師となる。	
		9月	長崎県私立活水高等女学校講師(生物学)嘱託。	
1899	明治 32 (33 歳)		6/21 夏目漱石、第五高等学校大学予科英語主任を命ぜらる。7/8 漱石、狩野享吉(一高校長)宛手紙で、山川信次郎(漱石の一高時代の同級生、英文学者)の件(一高招聘)と後任に関して問い合わせ。7/11(火) 漱石、夏期休業始まる。	8/3 文部省より公認学校における宗教教育を禁ずる訓令(12号)出る。・新渡戸稲造、米国で Bushido 刊。8/29 夏目漱石、山川信次郎と阿蘇に赴く。(二百十日の旅)
		7月	遠山、夏目漱石と面接し、五高英語科講師招聘を受諾。長崎への帰途、列車内で C. L. ブラウンと遭遇。鎮西学館及び活水女学校を辞任。	
		8/7	第五高等学校英語科講師嘱託として赴任する。	

1900	明治 33 (34 歳)	1/22 (月)	第五高等学校教授を拝命、叙高等官六等。(内閣) 八級俸下賜。(文部省) (漱石年表 p222)	5 徳富蘆花『思出の記』刊。7/10 海老名弾正『新人』創刊。9/30 内村鑑三『聖書之研究』創刊。12 月熊本に金融恐慌起り、各地に波及する。
		2/11	花陵会主催演説会で一般対象に講話。(於・三年坂教会)	
		3/10	叙正七位。(宮内省)	
		7 月上旬	夏目金之助教授の依頼により、英語科の主任を引き受ける。(漱石年表 p132) 7/18 (水) 漱石、鏡、筆と共に、洪水直後で汽車不通の箇所を徒歩で、熊本市を去り、東京市に向う。	
		9/4	夏目金之助(漱石)の後任として、大学予科英語科主任拝命。(第五高等学校)	
1901	明治 34 (35 歳)		4/28 (日) 遠山の手紙が漱石のもとに届く。5/7 (火) 漱石、遠山に「目録」(不詳)を送る。5/29 (水) 遠山と鏡からの手紙が、漱石のもとに届く。	
		10/24 18 時	花陵会主催演説会で決心者対象に講話(於・草葉町教会)	
1902	明治 35 (36 歳)	5/23	高等学校大学予科入学者選抜試験委員を拝命。(文部省)	1/30 日英同盟協約締結。4/8 海老名弾正・植村正久の論争集『基督論集』刊。
		11/1 19 時	花陵会主催創立第 6 回記念演説会で一般対象に講話(三年坂教会)	
		11/11	昇叙高等官五等。(内閣)	
1903	明治 36 (37 歳)	3/20	叙従六位。3/8 漱石(本郷)、奥太郎宛手紙に五高にはいろんな事情で戻らなくなったことを書く。4/13 奥太郎から五高の英語科の様子などを知らせる手紙が来る。7/3 漱石、奥太郎に手紙を出す。	4/13 小学校令改正、国定教科書制度を確立。6/30 内村鑑三「戦争廃止論」を『万潮報』に発表。10/9 朝報社を非戦論により退社。
1904	明治 37 (38 歳)	6/27	高等学校大学予科入学者選抜試験外国語書取試験委員を嘱託。(文部省)	2/10 日露戦争(ロシアに宣戦布告) 8/9 与謝野晶子「君死に給ふこと勿れ」を『明星』に発表。
1905	明治 38 (39 歳)	6/26	高等学校大学予科入学者選抜試験外国語書取試験委員を拝命。(文部省)	5/27 日本海海戦。9/5 日露講和条約調印。日比谷焼討事件(キリスト教会堂破壊焼却される。) 10/11 第 19 回日本基督教会大会、各教会のミッションからの自給自立の実行を決議。
1906	明治 39 (40 歳)	5/9	父半治永眠。	2/10 日本基督教青年会同盟『開拓者』創刊。3/31 鉄道国有法公布。6/30 徳富蘆花、トルストイをヤースナヤ・ポリャーナに訪問。
		6/13	第四学科主任を拝命。(第五高等学校)	
		6/15	昇叙高等官四等。(内閣)	
		6/29	高等学校大学予科入学者選抜試験外国語書取試験委員を拝命。(文部省)	
		10/1	叙正六位。	
1907	明治 40 (41 歳)	6/15	兼任第五高等学校生徒監。(内閣)	3/21 小学校令改正(義務教育 6 年制) 5/22 メソジスト 3 派(メソジスト監督教会、南メソジスト監督教会、カナダ・メソジスト教会) 合同総会開かれ、日本メソジスト教会成立、監督に本田庸
		6/25	高等学校大学予科入学者選抜試験外国語書取試験委員を拝命。(文部省)	

		6/27	勅令第二百四十六号を以て兼官廃官。	一選出。
		6/28	第五高等学校生徒監補選。(文部省)	
1908	明治 41 (42 歳)	7/2	入学試験委員を拝命。(第五高等学校)	4/28 第 1 回ブラジル移民 700 余名出発。10/1 波多野精一『基督教の起源』刊。
		10/6	母ツル永眠。	
1909	明治 42 (43 歳)	7/7	入学者選抜試験事務分担を拝命。(第五高等学校)	3/27 ジェーンズ米国で没。9/27 路帖神学校(日本ルーテル神学大学)、熊本に創立。10/26 伊藤博文、ハルビン駅頭で射殺される。
1910	明治 43 (44 歳)	1/19	次男・賢治(けんじ)出生。	4/1『白樺』創刊。4/6 基督教教育同盟会成立。5/25 大逆事件の検挙開始。8/22 韓国併合に関する日韓条約調印(朝鮮総督府設置)
		4/22	昇叙高等官三等。(内閣)	
		7/5	入学者選抜試験事務分担を拝命。(第五高等学校)	
		7/11	叙従五位。(宮内省)	
		9/30 (金)	第五高等学校教授を依願免本官(内閣)、講師嘱託となる。(第五高等学校)	
	10 月	私立九州学院創立に従事。		
1911	明治 44 (45 歳)	3/18	私立九州学院長就任。	1/24 大逆事件の幸徳秋水ら 11 名死刑。2/1 徳富蘆花、第一高等学校で「謀反論」と題し講演。幸徳秋水『基督抹殺論』刊。4/15 九州学院開校。4/21 小崎弘道『基督教と我国体』刊。11/13 高木壬太郎編『基督教大辞典』刊。
		5/12	妻・無津(三年坂教会員)、逝去。	
		5/14	熊本メソジスト三年坂教会で告别式。多数の会葬者参列の下に葬儀が営まれる。妻の死により妹・ツユ(明治 22 年 9 月 6 日生)を院長宅に住ませ、長男・次男の世話を頼む。	
		7/5	入学者選抜試験事務分担を拝命。(第五高等学校)	
1912	明治 45 ・大正 1 (46 歳)		ツユ、結婚により東京に移住。(緒方ツユとなる。)	7/30 明治天皇没、大正と改元。9/13 明治天皇大葬、乃木希典夫妻殉死。12/19 東京で憲政擁護大会開催(第 1 次護憲運動始まる)
1913	大正 2 (47 歳)		3 月川崎升、遠山の招きで鎮西学院から九州学院に移る。英語と修身を教え、構内にあったルーテル神学校の教授として神学を講じた。この時、遠山は鎮西学院の理事(当時は商議員)であった。	3/31 小崎弘道『国家と宗教』刊。4/1 日本基督教青年会同盟、日本女子基督教青年会同盟と共同で全国基督教青年会大会を開催。12/15 賀川豊彦『基督伝論争史』刊。
1914	大正 3 (48 歳)		齋藤、鎮西学院から移る。 「敬天愛人」を校訓と定める。(創立 20 周年記念誌)	1『神学評論』創刊。8/23 ドイツに宣戦布告、第 1 次世界大戦に参戦。11/7 青島陥落。
1915	大正 4	1/29	9 時より海老名弾正が九州学院での花陵会主催演説会で講話。	11/11 全国基督教徒御大典奉賀式、同志社で挙行。
1916	大正 5			4/11 西南学院開院式。9/10 内村鑑三、「欧州戦争と基督教」を『聖書之研究』に発表。
1917	大正 6 (51 歳)	9/17	渋谷うて(明治 17 年 9 月 9 日生)と再婚・入籍。	2/24 日本基督教会同盟の新約聖書改訳成る。10/5 改訳新約聖書刊行。
1918	大正 7 (52 歳)	1/11	福岡女学院財団法人初代理事長就任。(～昭和 7 年 10 月)	1/6 内村鑑三ら、再臨運動を始める。4/30 東京女子大学(学長新渡戸稲造)開校。6/9 海老名弾正ら再臨運動に反対を表明。8/2 シベリア出兵宣言。11/14 武者小路実篤ら「新しき村」を建設。

1919	大正 8 (53 歳)	3 月	活水女学院財団初代理事長就任。(～大正 10 年)	1/18 パリ講和会議開催 (西園寺公望ら出席) 5/23 衆議院議員選挙法改正 (直接国税 3 円以上の納税者に選挙権。小選挙区制)
			長男・不羈夫、九州学院を卒業し、東京商大 (現・一ツ橋大学) 入学。	
1920	大正 9 (54 歳)			4/15 同志社大学設立認可。12/9 大杉栄ら日本社会主義同盟創立。
1921	大正 10 (55 歳)	2 月	川崎升、鎮西学院同窓生として初めて院長に推されて母校に戻る。バウンに学んだ人格主義に基づき、敬神愛人の標語を掲げて教育を行う。	11/4 原首相、東京駅頭で刺殺される。12/13 ワシントン会議で日英米仏 4ヶ国条約成立し、日英同盟廃棄。
1922	大正 11 (56 歳)	1/22	川崎升 (鎮西学院長) と長崎県立長崎図書館を訪れる。	3/3 全国水平社創立 (京都) 8/17 有島武朗、北海道の有島農場を小作人に無償解放。
1923	大正 12 (57 歳)	6 月	Doctor of Letters (文学博士) の学位受領。	6/9 有島武朗自殺。9/1 関東大震災。
		11 月	熊本県教育会より顕彰、記念品授与。	
1924	大正 13 (58 歳)		鎮西学院が火災に罹り、遠山は理事会議長として援助を惜しまなかった。	6/27 小崎弘道、植村正久、内村鑑三らキリスト教有志、米国移民法に反対する決議を発表。9/10 内村鑑三『羅馬書の研究』刊。
1925	大正 14 (59 歳)			1/8 植村正久没。4/22 治安維持法公布。5/5 普通選挙法公布 (25 歳以上の男子に選挙権)
1926	昭和 1 (60 歳)			1/30 花岡山奉教 50 年記念式 (霊南坂教会、熊本教会など) 2/18 熊野義孝「神と世界との限界 (カール・バルトの神学に就いて)」を『福音新報』に発表。
1927	昭和 2 (61 歳)			1/29 宗教法案、帝国議会 (貴族院) に提出、キリスト教会を中心に反対運動。7/10 『岩波文庫』刊行開始。7/24 芥川龍之介自殺。9/13 横井時雄没。9/18 徳富蘆花没。
1928	昭和 3 (62 歳)	11 月	御大礼に際し文部大臣より表彰、記念品授与。	2/20 最初の衆議院議員男子普通選挙。3/15 共産党員、大検挙 (三・一五事件) 6/4 関東軍、張作霖を列車爆破殺害。6/29 治安維持法改正
1929	昭和 4 (63 歳)			2/12 宗教団体法案、帝国議会 (貴族院) に提出、反対運動起る。4/16 日本共産党員大検挙 (四・一六事件) 5 小林多喜二『蟹工船』
1930	昭和 5		次男・賢治、九州学院を卒業し、青山学院専門部英語師範科入学。	1/1 塚本虎二『聖書知識』創刊。3/28 内村鑑三没。
1931	昭和 6 (65 歳)			4/1 高倉徳太郎『福音と現代』創刊。9/18 満州事変始まる。
1932	昭和 7 (66 歳)	6 月	熊本師範学校学務部長谷 (遠山先生の教え子) の葬儀で告別の祈禱を捧げる。	2/3H. リデル没。3/1 満州国建国宣言。4/15 日本基督教連盟、政府に対し「時局に関する進言」、欧米各国キリスト教団体に対し声明書を発表。5/15 五・一五事件。
		9/16	執務中院長室にて卒倒。第五高等学校講師辞任。	
		10/9	午前 8 時 37 分、神の召を受けて昇天。	
		10/11	午後 3 時より学院講堂で学院葬が執り行われた。	